

政策・施策体系骨子(案)と委員意見対比表【発展分野】

政策	施策	主な取り組み	委員意見
生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造	1 子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の推進	①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③健康・体力づくりの推進 ④幼児教育の充実 ⑤高校生の進学力・就職力の向上 ⑥特別支援教育の充実	大分県の教育予算は九州内でも低い方と思う。学力だけでなく子どもの情操教育を支えていけるような施策立案、予算配分をお願いしたい。
			子どもたちがアートに触れることでコミュニケーション能力や表現力等が身につく、学力向上など他分野にも良い影響を与える可能性がある。
			「3つ子の魂百まで」と言うように、幼児期の教育が最も重要。まず幼稚園の3年間をしっかりと育てて小学校へ送り出さないとその先に繋がっていかない。子どもを育てるためには家庭を育てることが重要。
			子どもの就職率は上がっているが定着率はどうか。例えば県の公共工事等の入札のうち何%かを企業の人材育成費用に充てるような要件を講じるなど、あらゆる事業において「人材育成」という費目を計上してもよいのではないかと。
			情報技術の発展に伴うリスク、セキュリティ、情報モラル教育が重要。情報技術に依存するのではなく、自分の能力をどう拡張させるのかといった視点での教育やモラルの啓蒙がポイントになる。
	2 グローバル人材の育成	①世界に挑戦する意欲の向上 ②多様な価値観を持った者と協働する力の育成 ③郷土に愛着と誇りを持てる教育の推進	「地縁、支援、応援」という3つの「えん」という言葉がある。地域で人材を作っていくだけでなく、行政が金銭的、制度的な支援を行い、加えて外部からの応援が必要になってくる。これら3つの「えん」を繋いでローカルで活躍できる人材を育て、グローバルな世界に送り出していくことが必要。
	3 安全・安心な教育環境の確保	①いじめ・不登校対策の強化・充実 ②安全・安心な学校づくりの推進	先生がいじめや子どもの不満について公平にものを見て解決につなげることができていないケースが多いように感じる。
			学校で不登校となった生徒がそのまま卒業した場合に、そのまま関係が切れてしまうのではなく地域のサポートセンターに繋いでいくなど、不登校生徒がそのままひきこもりやニートにならないよう継続的な支援が必要。
			情報技術の発展に伴うリスク、セキュリティ、情報モラル教育が重要。情報技術に依存するのではなく、自分の能力をどう拡張させるのかといった視点での教育やモラルの啓蒙がポイントになる。
4 信頼される学校づくりの推進	①地域とともにある学校づくりの推進 ②魅力ある高等学校づくりの推進 ③教職員の意識改革と資質能力の向上 ④魅力ある私立学校づくりへの支援	先生がいじめや子どもの不満について公平にものを見て解決につなげることができていないケースが多いように感じる。	
5 地域とともに歩む大学等高等教育の推進	①看護科学大学の魅力づくり ②芸術文化短期大学の魅力づくり ③県内大学等との連携による産業の振興や地域活性化の推進	大学生の就職について、企業は効率化が最優先で人材を育成する時間が無い一方で大学側は実学に乏しいため、その部分を行政が間を取り持つことが必要ではないかと。	
6 青少年の健全育成	①青少年を育てる地域・家庭づくり ②青少年や家庭への支援体制の充実 ③豊かな心をはぐくむ体験活動 ④少年非行防止対策や支援活動の推進 ⑤福祉犯の取締りと被害少年に対する保護活動の推進	学校で不登校となった生徒がそのまま卒業した場合に、そのまま関係が切れてしまうのではなく地域のサポートセンターに繋いでいくなど、不登校生徒がそのままひきこもりやニートにならないよう継続的な支援が必要。	
		学校や行政、家庭だけに頼ることなく地域全体で若者たちのやり直しができるような地域、社会づくりが必要。	
		大分のひきこもりとニートの数がそれぞれ5千人いるということをニュースで見たが、生産年齢人口が20万人減少する中でこの1万人という数は大切だと思う。このような若者達にもう1歩踏み込んで地域に出てきていただくような施策が必要。	
7 県民一人一人の生涯を通じた学習の支援	①多様な学習活動への支援 ②社会全体の「協育」力の向上 ③コミュニティの協働による家庭教育支援の推進	「地縁、支援、応援」という3つの「えん」という言葉がある。地域で人材を作っていくだけでなく、行政が金銭的、制度的な支援を行い、加えて外部からの応援が必要になってくる。これら3つの「えん」を繋いでローカルで活躍できる人材を育て、グローバルな世界に送り出していくことが必要。	
		美術館や図書館の無償での開放や招待などによりできるだけ垣根を取り払い、美術館や図書館が近くにいる子ども達等にも参加しやすいような仕組みづくりをお願いしたい。	

政策	施策		主な取り組み	委員意見
芸術文化による創造 県おおいの推進	8	芸術文化の創造	①多彩で優れた芸術文化に触れる 機会の提供 ②県民参加による芸術文化活動の 推進と芸術文化を創造し支える人づく り ③次代の文化の担い手づくり ④県立美術館による鑑賞・創作機会 の提供	美術館や図書館の無償での開放や招待などによりできるだけ垣根を取り 払い、美術館や図書館が近くにない子ども達等にも参加しやすいよう な仕組みづくりをお願いしたい。 県内の小学生6万人を美術館に招待する予定だが、美術館だけでなく (音響設計という工学的な要素も含む)劇場の方も併せてPRしてほしい。
	9	芸術文化ゾーンを核と した取組	①創造的人材の育成・県内誘致 ②創造性を活かした地域づくりの推 進 ③芸術文化の創造性を生かした行 政課題への対応 ④芸術文化ゾーンを核としたネット ワークの形成	「おんせん県おおい」は親しみがあり県外にもアピールできているの で、「創造県おおい」「教育県おおい」についても、名称はキャッチー だが実施内容は真剣に取り組んでいるような工夫をして欲しい。 クリエイティブシティ化は全ての政策に横串を刺すイメージ。クリエイティ ブ大分という視点を長計の柱に据えていければと考えている。 県立美術館で地方の工芸作家やアーティストの作品が展示、販売される と思うが、それを契機に国東等の地方のギャラリー等にも人が流れてい くような動線ができればいいと思う。 高齢者にとってアートは生きがいにつながると思うが作品を展示・発表で きる場が少ないので、芸術文化ゾーンにおいて高齢者の作品を発表でき る機会をつくって欲しい。 芸術文化については、国東半島の神仏習合や中津・竹田の城下町等大 分にある潜在的な力をもっと掘り起こし、その力を発揮させていくことが 必要。
	10	文化財・伝統文化の保 存・活用・継承の推進	①文化財・伝統文化の保存・活用 ②文化財・伝統文化の継承 ③文化財・伝統文化の情報発信	
スポーツの振興	11	県民スポーツの推進	①生涯にわたってスポーツに親しむ 機運の醸成 ②県民スポーツを支える環境づくり の推進 ③指導者の養成・確保と関係団体と の連携の推進	
	12	世界に羽ばたく選手の 育成	①ジュニア期からの一貫指導体制の 推進 ②優秀選手の育成・強化 ③スポーツを支える人材の養成	
	13	スポーツによる地域の 元気づくり	①2019年ラグビーワールドカップ大 会の成功 ②国際スポーツ大会等の誘致 ③スポーツへの関心の向上とスポ ーツツーリズムの推進	
多様な県民活動の推 進	14	NPOの育成	①NPO法人の設立等支援 ②NPO・ボランティアの育成・活動支 援 ③NPO・ボランティアの情報発信の 支援、ネットワークの強化	
	15	多様な主体との協働の 推進	①協働に向けた支え合いの仕組み づくり ②協働の県民理解促進	NPOはボランティアの位置付けとされているが、協働という立場をよく 理解してほしい。政策企画という目に見えにくい部分にも予算化してい ただけるような配慮をしてほしい。 県民サービスの向上等につながる提案をしたNPOに対しては、その提 案が実現できるような管理、運営等の部分も含めて支援してほしい。

政策	施策		主な取り組み	委員意見
九州の東の玄関口にふさわしい交通ネットワークづくり	16	広域交通網の整備推進	①広域交通網の整備推進 ②ICへのアクセス道路の整備推進 ③フェリーターミナルの整備や利便性向上	大分空港の有効活用として、空港間の連携、広域的な人の移動というのも議論の対象になると思う。その他、南海トラフ地震を見据えたバックアップルートの確保ということも視野に入れておかないといけない。 大分に来た観光客が県内各地を周遊するためには、郊外も含めて時系列的に道路整備をする必要がある。
	17	戦略的な交通政策の展開	①フェリー航路の利用促進 ②大分空港の利用促進 ③鉄道の利便性・快適性の向上 ④交通結節機能の強化	大分空港の有効活用として、空港間の連携、広域的な人の移動というのも議論の対象になると思う。その他、南海トラフ地震を見据えたバックアップルートの確保ということも視野に入れておかないといけない。
	18	地域生活交通システムの形成	①ネットワーク・コミュニティの基盤づくり ②快適な都市空間の形成 ③地域公共交通の確保・維持 ④複数市町村の課題への支援 ⑤公共交通の利用促進	大分に来た観光客が県内各地を周遊するためには、郊外も含めて時系列的に道路整備をする必要がある。 国東半島を訪れた方が気持ちよくスムーズに廻れるよう、国東の山々を巡る道路の整備をしっかりと欲しい。

政策・施策体系骨子(案)と委員意見対比表【活力分野】

政策	施策		主な取り組み	委員意見
県民の暮らしを支える産業の振興としごとの確保	10	急速に進化する情報通信技術の普及・活用	①情報通信基盤の整備による快適なIT環境の提供 ②ビッグデータやオープンデータ、3D造形技術などの活用による新たなサービスの提供 ③ITを活用した新ビジネスへの支援	情報技術の発展に伴うリスク、セキュリティ、情報モラル教育が重要。情報技術に依存するのではなく、自分の能力をどう拡張させるのかといった視点での教育やモラルの啓蒙がポイントになる。
				大分が観光分野でアピールしていく上で、特に公共施設や観光施設におけるWi-Fi環境整備による利便性の向上が重要。
				大分県は情報インフラの整備は進んでいるが、これからは利活用等ソフト面での対応が重要になってくると思う。ブロードバンド普及率もかなり進んできているが、ICTの技術を役立たせるためには、物理的に厳しい地域に普及させることが一番のポイントと思う。